

田中復興大臣宮城県訪問ぶら下がり記者会見録  
(令和元年9月12日(木) 17:02~17:10 於) 宮城県庁4階会議室)

1. 発言要旨

皆さん、こんにちは。県民の皆様、こんにちは。

昨日、内閣改造にあたりまして、新たに復興大臣を仰せつかりました、衆議院議員の田中和徳でございます。

昨日の今日ということでありましたけれど、何としても現場主義と、現地の被災された皆様方に本当に沿った政策を進めていく、事業を進めていく、この思いを持って、知事さんは大変公務御多忙の中であったわけでございますが、お時間をとっていただき、お会いしていただいたところでございます。

今、お目にかかって、いろいろとお話をいただきました。4つについてのお話があったわけでございますが、特に私どものほうとしては、あと1年半となりました間に、何としても徹底して宮城県の復旧・復興に力を尽くしていくというお約束を申し上げたところでございます。

応急仮設住宅の入居者は、約100戸、約200人でいらっしゃいますけれど、減少した一方で、災害公営住宅等に移った被災者等については、心のケア、見守り対策などが課題となっております。

また、産業の再生についても、水産加工業における売り上げ回復の遅れ、あるいは人材不足の問題、製造業における製造品出荷額等の伸び悩み、観光分野におけるインバウンドの一層の増加が必要であることなどの課題があると承知しているところです。

村井知事からは、特に復旧・復興や教育分野における人的支援の継続や、東日本大震災復興関連予算確保の要望があったところでございますが、私どもも重く受けとめ、努力してまいりたいと思っております。

特に、専門家の人手不足については、さらに御支援をすることができればという思いもありますので、早速努力をしてまいりたいと思っております。

なお、令和3年度後にいろいろな事業のお願いをしたいというお話もあったわけでございますが、こういうことについても、今後、継続する事業として、しっかりと対応できるようにしてまいりたいと思っております。

2. 質疑応答

(問) 改めてになりますが、今日早速、こちら宮城に来られた目的と、大臣就任以前の被災地宮城との関わり合いが何かありましたらお願いします。

(答) 重なって恐縮でございますが、私たち復興庁の仕事というのは、地元第一主義でございます。とにかく地元の皆様の心に寄り添う、そして事業についても、地元の皆様の御意向を受けてやっていくということでございます。

昨日、もうマスコミ報道にもあったかもしれませんが、総理大臣が我々新しい内閣に何を求めるかという指示の中で一番最初におっしゃったことは、「全閣僚が復興大臣になったということで、そのつもりで仕事に当たるように」。こういうお話がわざわざありました。このことからして、私は、やはり今日は何としても、村井知事のお時間がいただけるのであれば、1分でもお目にかかりたいという思いでした。

今の2番目の質問についてであります。私は、実は野党になったときに最初に受けた仕事は、シャドウ・キャビネットの環境大臣でございました。このときは、自民党の環境部会長とあわせて衆議院常任委員会の環境委員会筆頭理事でございました。その中で、あの災害が起きたわけです。

もちろん、福島県のご存じのとおりでございますが、早速現地にまいりまして、ありとあらゆる調査を行いました。そして、県内では、気仙沼やあの海岸線をずっと歩きました。水産加工業者の皆様の本当に大変な状況、生命が失われて大変なときに、生活も経済も一緒に失ってしまった。鉄道から道路まで大変な状況になっている。この惨状を見て、本当に大変なことだということとあわせて、与野党を問わず、挙げて取り組んでいかななくてはならないという思いを持っていたわけでございます。

さて、与党に復帰した後、最初に務めた仕事は環境副大臣でした。当然、職務柄、宮城県のほうには再三にわたって足を運ばせていただいて、当時、知事からもいろいろな御指導をいただきましたし、地元の皆様方のいろいろな声を受けとめて行政に反映してまいりました。

まだまだ道半ばという状況にございますけれど、あと1年半という約束の時もございますので、さらに一生懸命、お一人お一人の気持ちを大切にしながら対応していきたいという思いです。

(問) 先ほどのお話の中で、知事のほうから令和3年度後もお願いしたいというお話があったということでしたが、具体的にどういったことをお願いされたのか教えてください。

(答) 復興庁の後継組織についても、いろいろと今、検討中でございます。復興・創生期間後の令和3年度以降についての業務の仕方ということでございます。今、与党の第8次提言、あるいは被災自治体の要望等を踏まえながら復興・創生期間後も適切な対応を図っていくということで、非常に重たい責任を担うことになりま

すが、年内にいろいろな意見も取りまとめて示していくことができると思っております。

当然、宮城県の知事からのお話は、その中に組み込まれていくことだと思っておりますけれど、非常に重要なことであろうと思います。ちょうど私がそういう立場になった大臣ということでございます。

(以 上)